クリエイティブ職に必要な『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』の作成

MAKING OF "PORTFOLIO PRODUCTION BOOK / INTRODUCTION" NECESSARY FOR A CREATIVE JOB

杉本　真理子　芸術工学部まんが表現学科　助教
藤田　玲子　　キャリアセンター室　チーフ

Mariko SUGIMOTO　Department of Manga Media, School of Arts and Design, Assistant Professor
Reiko FUJITA　Office of Career Development, Chief

〈要旨〉

芸術・デザイン系大学生の就職活動で、クリエイティブ職を希望するにあたり、「ポートフォリオ」の提出はほぼ必須である。

しかし､学生が自身のポートフォリオを作成するに際し､ポートフォリオの作り方を指導する授業は、各学科で取り組みが異なり、しかも必ずしも全ての学科で開講されるわけではない。

筆者はキャリアセンターからの要請により、学科を問わず受講できる「ポートフォリオ作成講座」を開講し4年経つが、その経験から今回の『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』を制作するに至った。自分の作品を見直す事も含め、作品に合った「フォント」や「余白」などをまずテンプレート化し、レイアウトに関わってこなかった学生でも最初の1冊を作れる内容にした。

この冊子の基本的な対象は 2〜3 年生である。2 年生の早い段階から、ポートフォリオの重要性を知り、普段から自身の作品の見直しや、作品データの管理、自主制作課題への積極的に取り組む姿勢を持ってもらうだけではなく、早い時期から進路について考えるきっかけになればと考える。

〈Summary〉

Submission of a "portfolio" is almost indispensable in order to seek a creative job in job hunting for arts and design students. However, when students create their own portfolios, classes that teach how to create a portfolio differ in approach in each department, and are not necessarily offered in all departments. I started "Portfolio course" at the request of the Career Center, and has continued for 4 years, and from that experience, I came to produce this "Portfolio production BOOK · introductory edition". First of all, I made templates, such as "font" and "margins" that fit my work, including reviewing my work, and made it possible for students who were not involved in layout to make the first book. The basic target of this booklet is 2nd to 3rd students. With these efforts, I hope that students will be able to understand the importance of the portfolio from the early stage of the second grader. And I would like the students to be able to review their own work and manage their data on a regular basis. In addition, I want students to actively work on independently produced works and start thinking about their own path from an early stage.

＜はじめに＞

本稿は2015年度から在学生を対象に実施している「ポートフォリオ作成講座」の取り組みと、その実施過程での成果物を紹介するとともに、在学生の就職活動者をとりまく状況を鑑みて整備・提供の必要性が高いと感じた教材『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』の制作について、制作背景とともに報告するものである。

＜序章＞

（第1節）講座開講の経緯

筆者は2015年、本学キャリアセンター室（以下、キャリアセンターという）からの要請で、就職活動サポートの一環として「ポートフォリオ作成講座」を開講することとなった。キャリアセンターでは従前より、外部講師を招聘して講座等を実施してきたが、それらは一般的知識のレクチャーに留まる、または内容がある特定の業界向けに偏る等の問題があった。加えて学科によっては、制作技術面での指導が欠かせないことも課題として存在していたため、かねてより学科や希望進路、技術的習熟度ほか多様な段階・状況にある学生に対し柔軟に対応できる講師が求められていた。次項以降に本学の就職指導と学生の状況について概観を記し、「ポートフォリオ作成講座」開講に至る背景をより詳細に述べることとする。

なおポートフォリオとは、ここではクリエイティブ業界や美大・芸大でいうところの、創作者自らの制作実績、技術力や表現力をビジュアライズしてPRするための個人カタログという性質のものを指す。

特に学生の場合は、就職活動やコンペテション、インターンシップ、企業・団体・イベントなどへの採用選考・採択判定の場面で使用するツールとして、必ず準備しておくべきものとして定義し、本稿を進めるものとする。

（第2節）クリエイティブ職への就職状況

キャリアセンターでは9月～10月にかけて3年生の個人面談を実施している。

例年面談を受けた学生の約90%（2019年度3月卒生356名中320名）が就職を希望し、そのほとんどの学生が「クリエイティブ職」を希望する。

なお、本書における「クリエイティブ職」とは、一般職（営業事務・一般事務・貿易事務・秘書・経理事務など）とは違い、主に作り手（デザイン・考案・制作など）といったジャンルを指している。それぞれの内容は多岐にわたるが、具体的な例として挙げると、「グラフィクデザイナー」「エディトリアルデザイナー」「パッケージデザイナー」「イラストレーター」「WEBデザイナー」など（印刷業界）、「建築家」「空間デザイナー」「インテリアコーディネーターなど（建築業界）、「カーデザイナー」「プロダクトデザイナー」「ディスプレイデザイナー」「照明デザイナー」など（プロダクト業界）、「ファッションデザイナー」「パタンナー」「スタイリスト」など（ファッション業界）、「キャラクターデザイナー」「コンテンツプランナー」「ゲームプランナー」「3DCGデザイナー」「プログラマー」など（ゲーム業界）、「映画監督」「カメラマン」「CMプランナー」「TVディレクター」など（映像業界）、「アニメーター（作画、動画、彩色）」など（アニメ業界）、「造型師」「原型師」「モデラー」など（造型業界）が考えられる。

2019年度3月卒生の就職率は2019年5月の調査で全体の約70%」（250名）となった。

当初クリエイティブ職を志望していた320名の内、クリエイティブ職に就いたのは137名（約55%）で、その他の学生は、志望していたにもかかわらず、クリエイティブ職に就けていない。進学や別の職種に変更した学生がほとんどであるが、その理由は、約半数の学生が就職活動のいずれかの時点でクリエイティブ職を諦めているのが原因であると思われる。

（第3節）なぜ、クリエイティブ職に就けないのか？

最終的にクリエイティブ職以外の職種への就職をした学生の多くに下記のような傾向・特徴が見受けられる。

①目標が漠然としている

なぜ、クリエイティブ職なのか？という質問を就職活動期間中の4年生にすると学科に関係なく「芸術系の大学にいるのでデザインの仕事がしたい」「総合職は自信が無い

から」といった考えだけでクリエイティブ職を志望している。ターゲットが漠然としていては、準備や取るべき対策は見えてこない。

②自己分析や業界研究が不十分

「どんな仕事がしたいのか？」「その仕事で求められる力は何か？」「(受けたい企業の)採用試験内容は？」など、その会社に入る為に準備するべき事を想定できておらず、具体的な活動に移行できていない。

③課題作品以外の自主制作作品が少なく、整理やブラッシュアップもされていない。

課題で制作した作品しか手元に無く、希望する業界や企業にアピールできる作品が無い。

課題作品においてもポートフォリオに掲載する為の整理やブラッシュアップができていない。中には作品データを紛失してしまっている学生もいる。

④着手が遅い

キャリアセンターでは 3 年生の後期には、汎用型ポートフォリオ(特に対象業界を定めず、自身のこれまでの全ての活動と作品の写真・画像を、解説・PR 事項とともに時系列で纏めたもの)の作成に着手するように伝えている。本学ではポートフォリオの指導をしている学科もあるが、必ずしも全ての学科が就職活動を想定した指導を行っているわけではない。学科で培ったスキル・能力に対応する業界が異なるがゆえの温度差であろう。

以上の事から、選考に進めたとしても、アピールが不十分、またポートフォリオが完成できない為、エントリーを諦めるなどの問題が起きている。

（第 4 節）クリエイティブ職を目指す為に改善するべきこと

①低学年の時期から進路について検討を始める。

②業界研究・企業研究・職業研究の重要性を認識する。

③自主制作やコンペ、プロジェクトへの参加など意識して行動する。

④ポートフォリオの必要性について知っておく。

これらを自ら考え、行動に移せる必要がある。

（第 5 節）就職に対するキャリアセンターのサポート

下記内容のセミナーを企画・実施するなど、1 年次から就職や進路に対して真摯かつ具体的に考え、行動に移すためのサポートを行っている。

①低学年向けガイダンス

「大学入門セミナー」「キャリアガイダンス」などを通して卒業後の進路について考える機会を設けている。

②就職ガイダンス

3 年次 4 月から就職ガイダンスを定期的に実施し「筆記試験対策」「業界・企業研究セミナー」「(企業のデザイナーを招いての)ポートフォリオ講座」などを実施。また 1 月～ 2 月にかけては「履歴書作成講座」「面接対策」など、就職試験に向けたセミナーも実施している。

なお前提として、就職については学生が自発的に考え準備する必要があるため、キャリアセンターで実施しているセミナーはすべて任意である。

（第 6 節）ポートフォリオ指導の問題点

上記のようにキャリアセンターでは就職活動に関係するサポートを低学年から行なっているが、「ポートフォリオ」は実制作をともない、一括りで指導するのは困難かつ有効性を担保しづらい。

従前から芸術・デザイン系大学生の就職活動において、クリエイティブ職を希望するにあたり、「ポートフォリオ」の作成はほぼ必須のものである。だが、「ポートフォリオの作り方」といった内容の授業は、本学では各学科で取り組みが異なり、必ずしも全ての学科で開講される授業ではない。

さらに現実問題として、インターンシップ直前や面接直前に「必要になったので急いで作る」という学生が大半であり、1 冊（おおよそ 24 ページ程度）分の作品がないという状態で相談に来るケースが多いといういうのが現状である。

〈第１章〉「ポートフォリオ作成講座」での取り組み

これら背景のもと、筆者のもとにキャリアセンターからポートフォリオ講座の開講と学生指導の依頼があり、以来、学生の状況や業界の動向によって内容をブラッシュアップしながら講座運営を行い、2019 年度で本講座は 5 年目を迎えることとなった。以下では個別の取組の詳細と、講座実施の過程で浮かび上がった課題を解決すべく、『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』に反映させた点について述べる。

（第１節）講座の内容について

2015 年、キャリアセンターからの要請で「ポートフォリオ作成講座」を開講することとなったが、それにあたり「Adobe Illustrator」の基礎講座も開講した。

これは、基礎教育科目「コンピュータ基礎実習」についていけなかった学生や、1 年生で履修したものの 3 年生になって使い方を忘れてしまった学生を対象としている。（ポートフォリオ講座は Adobe Illustrator を使用するため、その予備学習としての意図が大きい）。

「ポートフォリオ作成講座」は後期に 6 回開講し、時間は毎週水曜か木曜（年度によって変更となる可能性がある）時間は 18:00 からの 90 分間としている。

講座の主な対象は 3 年生ではあるが、もちろん学年は問わず受講は可能である。キャリアセンターにて参加者を募集し、毎年 20 人前後、学科を問わず希望者がある（表 1)。

（表 1） ポートフォリオ講座受講生内訳表
2015年度は「基礎編・実践編」共の人数。学年は区別していない

	C	F	I	M	P	V	E	
2015 年	4	7	6	3	5	10	11	46
2016 年	1	0	0	0	8	6	7	22
2017 年	2	4	2	2	9	6	2	27
2018 年	1	7	0	1	6	4	3	22
								117

できるだけ人数制限はしないようにしているが、教室がコンピュータラボの 2 階で、コンピュータの数に限りがあり、また講師も筆者一人であるため、30 人を越えると抽選となるか、追加講義も考えなければならない。開講時期は 10 月〜12 月までの間で 6 回、冬休み中に続きの作業ができるように配慮している。

内容の詳細は後述するが、ポートフォリオを作った事がない学生、作り方がわからない学生を対象としている。

この講座を受講する学生のほとんどは、まだ企業研究が足りず、また、作品もほとんどない状態である事が多い。受講生の多くは 3 年生という事もあり、すぐに必要である場合もある。しかし、レイアウトを講義しようにも、素材がないため、なかなか見開きで数ページ分が作れない状態であった。まずは行きたい業界によって作るポートフォリオが変わってくる、という説明から始める。

（第２節）業界別ポートフォリオの制作

ポートフォリオは、受け手となる企業・団体において、学生の能力や資質、現時点での経験値や将来性を見極めるため、あるいは感性や思考が自社のサービスや業務にマッチするかどうかを見極める判断材料となる。希望する業界よって、内容は大きく異なる。講座では以下のような業種・分野別の大まかな傾向をまず知っておくことを伝え、個別の企業の製品やサービスを把握して、より適切な PR ができるよう考察を深めることを勧めている。

●グラフィックデザイン

・一通りのデザイン業務ができる。

・希望の企業や職種によりサイズを変える必要がある。

・職種により内容を変える必要がある。

・組版の基本がわかっているかどうか。

・やってきたことばかりみせるのではなく、その業界で働きたいという気持ちを意識して作品を選ぶ。

・作品数が多すぎても見てもらえない可能性がある。自信作でまとめる等、相手の目に留まるような工夫が大切。

●3DCG・ゲームコンテンツ

・制作ができるという事をアピール。

・世界観や作り込みを見せる。

・動画があればDVDや公開サイトのQRコード、URLを記載するなど映像作品の技量も見てもらえるようにする。
・デッサンは必要である場合が多い。
・表紙もきちんと作り、ファイルも全部埋める。

●環境デザイン
（アトリエ系）
・製本されて作り込まれているものが好まれる。
・自分の世界観が作品に反映されているか。
（企業系）
・ファイルでよいが、製図の縮尺を変えないためA3サイズが好ましい。丁寧な制作を。

●プロダクトデザイン
［インテリア・空間］
・製図の縮尺を変えないためA3サイズが好ましい。
（スペース系）
・設計図が描ける、パース（手書き・グラフィック）が描ける。
・インテリアなど配置したリアルな模型が作れる。
・グラフィックデザインができる。
（エレメント系）
・作品をしっかりと載せる。（写真は美しく）
［インダストリアル］
・車などはデッサンを見せるため大きい方がよい。
・ファイルより製本されたものがよい。
（返却なしが多いので、負担にならないよう大量に作れる事を考える）
・成果だけ見せずにプロセスをしっかり載せる。
・スケッチを載せる。

●ファッションデザイン
・企業系、コレクション系で違う。
・カジュアル、モードで違う。
・自分の方向性を考えて作成する。
・ビジュアルやイメージを見せる。
・デザイン画、企画イメージ、パターン、作品、ショーの写真など興味を引くように。

●アニメ業界
・A4サイズでよい。
・職種によって内容を変える必要がある。
（アニメーター）
・手足など身体の苦手な部分が切れていないかどうか。
・色々なタッチ、パターン、バリエーションがあるか。
（仕上げ）
・一つの絵で色の表現の違いなどが表せているもの。

●クラフト
・作品を美しく見せることが基本。

●まんが
・まんがを描ける強みを見せる。
・行きたい企業や業種で、何ができるか。

※上記内容は、時代と共に変化するため、加筆・修正を随時行なっている。また、書類選考や履歴書と共に送付する場合や、プレゼンテーションを行う場合、メールに添付する場合などあり、これら取扱いに関する諸注意は『ポートフォリオ制作BOOK』で解説する。

制作にあたり企業研究をまず行う必要があるが、PRする相手によって求められる能力・人材が異なる事を念頭において、ポートフォリオの内容（作品の構成や掲載の順番）を変更するなどのフレキシビリティは最低限求められる事となる。なお業界別に求められるポートフォリオの内容に関しては、講座の1回目で全学科の受講生を対象に解説をしている。

（第3節）受講生について

講座を通して受講生と接していくなかで、学生の置かれている状況や傾向をうかがい知ることができた。解決すべき課題として、講座の改善点を見出すとともに、『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』の内容に反映する。

問題1.）ポートフォリオに載せるべき作品がない

講座は3年生を主としているが、自主制作の意識が乏しく、

学科の課題で手一杯な感じがする。制作済みの課題に対しても、制作意図（コンセプト）が明白ではなく、「課題だったので作った」という回答が多かった。

問題 2.）レイアウトができない

ビジュアルデザイン学科でグラフィックデザイン・エディトリアルデザインを学んでいた学生以外、フォントや余白の重要性に対する意識が低く、適当なレイアウトやフォント使用を正す作業から始める事になる。開講当初は、「とにかくキレイにキッチリしたものを作る」という事を念頭に置いていたが、のちに「自分の作品にあったものを選ぶ」という方向に転換した。その様子は後述する。

問題 3.）作品に対する思い入れが稀薄

一つの作品についての情報が少なく、完成画像を貼り付けて終わり、という学生も多い。コンセプトやその作品のアピールポイント、課題であっても、他人と違う点など、客観的に分析できておらず、タイトルやリード、本文など、文字として記入すべき素材もなかなか出てこない。

問題 4.）作品以外の素材のなさ

一つの作品を制作するに至った過程としてのアイデアスケッチやラフスケッチ、作業の様子やミーティングの様子など、「工程・過程」をきちんと経ていなかったり、記録していなかったりする。

問題 5.）継続できない

講座が終わった後も、引き続き作業をして欲しいが、日常的な課題や作業に追われて結局は作成するのが提出すべき時期のギリギリになってしまう。

これらの問題の解決策として、今回の冊子を作るに至ったわけであるが、それ以前にまず「レイアウト」という考え方を、グラフィックデザインにあまり興味がない学生にわかりやすく簡単に説明することが重要となる。そのためには自分の作品と向き合うことも大切であるということをうまく繋げて説明できる方法を模索した。

作品を見つめ直さない（課題だったから作っただけで放置している）というのはよくある問題だが、実は致命的な欠点で、つまりは「ブラッシュアップできない」という事である。自分でどこをゴールとして目指しているかという意識の高さの程が判別できてしまう。

（第 4 節）講座内容の変遷

ここで、開講当時の講座内容と、問題点を改善しつつ現在の講義内容に変更した理由を解説する。

–2015 年当時–

[目標] とにかく、作品をきちんと「レイアウト」できる事。

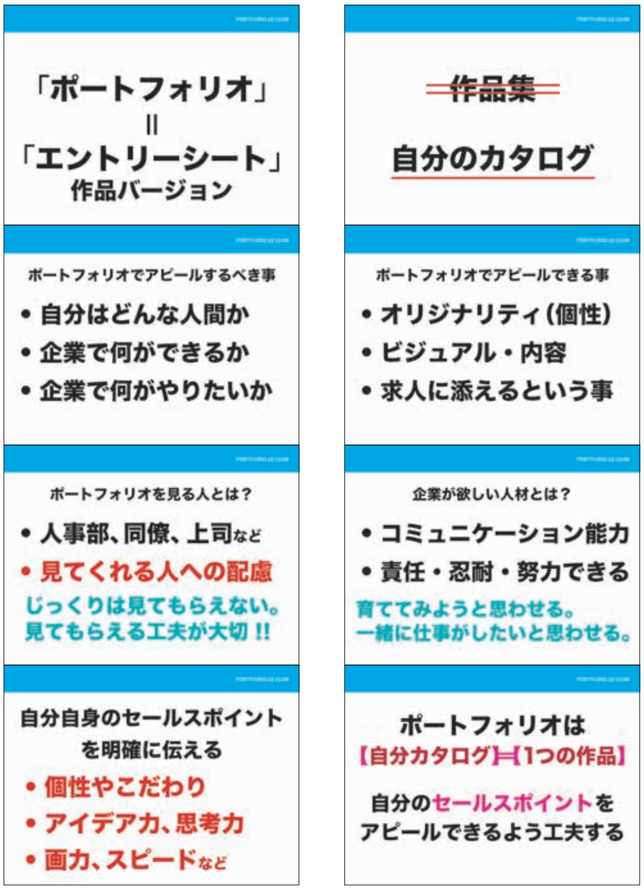
1 回目）就活におけるポートフォリオとはどういうものか（図 1）。

ポートフォリオ制作手順説明（図 2）。

学科別ポートフォリオの要点説明・先輩の作品を見る

2 回目）レイアウトの基礎を学習する（図 3）。

Adobe Illustrator の使い方の復習を兼ねて、既存の素材を配布し、指示通りにレイアウトする



（図1） 就活においてのポートフォリオとは／スライド

（図2） ポートフォリオの制作手順／スライド

（図3） レイアウトの基礎／スライド

3 回目）各自の作品を見開きで 2 ページレイアウトする

4 回目）修正ののち、できた者は 4 ページレイアウトする

5 回目）修正・加筆など

6 回目）プリントアウトして完成させる

図 1〜3 のスライドは講座内で使用しているものである。加筆・修正を加えながら、現在も使用しているが、1 回目から説明するには、まだ学生にとって実感が薄いものもある。

ポートフォリオとは、（一部の職種を除いて）ただ作品を並べただけのものではないという事を説明しながらも、受講生の多くが「レイアウトの基礎」を知る事が初めてであり、実際は「キレイに並べて」の次の段階である「個性を出す」というところまで至らず、講座が終わってしまうのが現実であった。

途中、作品リストを作成する、という項目も追加するようにしたが、あまり改善はしなかった。

また、講座以外の日に相談に来る学生のほとんどが、パソコンを持参するものの、ディスクトップの整理がされておらず、作品を探し出すのにかなり時間がかかったり、無くしたりしていることが多いことも気になっていた。

そこで、まずデータを整理する事を促すようにした。（図 4）。

「作品やデータの整理をまず行う」という内容は、今回の『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』でも、最初の方のページで解説している（図 5）。

自分の PC 内の作品データを整理することで、どんな作品があるかの把握や量的な過不足を体感して認識することができる。

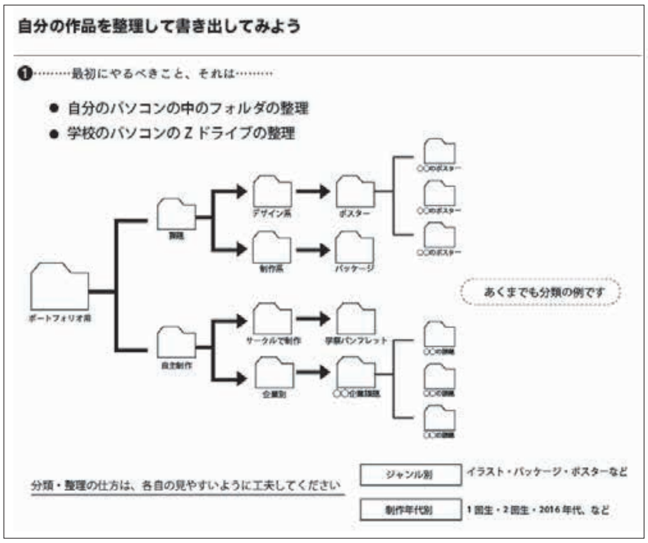
［内容を再構成した結果］

−2018 年−

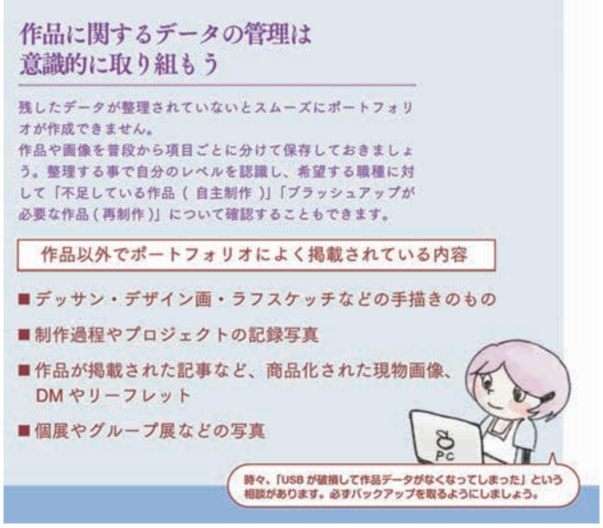
1 回目）ポートフォリオとはどういうものか・学科別ポートフォリオの要点・先輩の作品を見る（図 1）（図 2）。

2 回目）作品を書き出すために、パソコン内のデータを整理するように促す（図 4）。『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』にも明記（図 5）。

現在ある自分の作品をレイアウトに関係なく並べ、プリントアウトし、客観的に見る。項目別にデータを整理する。



（図4） データの整理と作品の書き出し／スライド



（図5） 『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
作品やデータを整理する事を明記

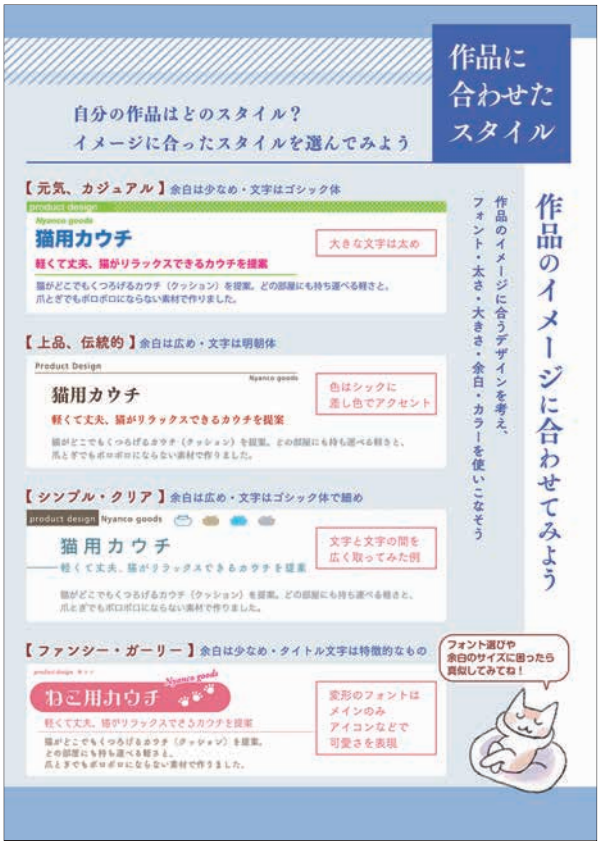
3 回目）自分の作品をよく観察して、どういったジャンルが多いか分析する。

4 回目）ジャンルに沿った余白、フォント、テーマカラーをテンプレートに当てはめ、見開きで 2 ページレイアウトする（図 6）。『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』（図 7）。

5 回目）添削、のち見開きで 4 ページ分作成する。

6 回目）プリントアウトして修正し、さらにページを増やす。

（図6） 自分の作品にあったフォントを選ぶ／スライド



（図7） 『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
作品のスタイル別フォントの決め方

開始 1 年目の講座受講生の様子と、現在の受講生の様子を比べると、本文やレイアウトが浮かばず、考えている間

に講義が終わる、という学生はいなくなった。しかしながら、1 作品のレイアウトはできるものの、他の作品も見てポートフォリオを 1 冊完成させるに至らないのが今後の課題である。

ポートフォリオは、概ね「必要になったから慌てて作成する」という学生が多数である。その意識を変え、2 年生で実習が増えだした段階から意識して作品の記録を取っておく習慣をつけて欲しく、このことも今回『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』を作成した理由の一つである。

また、ゼミや卒業研究など、学科の課題に追われる前から、意識して「自主制作」」に取り組んで欲しい。今回の冊子は、2〜3 年生のオリエンテーションで配布する予定だが、企業研究まではまだ意識できないまでも、作品を残す、自主的に制作するなど、早い学年から取り組みができることも多くあるので、まずそこから意識をして欲しい。

昨年度はポートフォリオ作成講座に 1 年生も 3 名、参加していた。少しずつ就活における意識が変わってきたのかもしれない（表 2)。

(表 2)受講生学年別参加者表

	1	2	3
2015 年	0	0	46
2016 年	0	1	21
2017 年	1	0	26
2018 年	3	1	18

（第 5 節）講座で学生が理解習熟に至らなかった点

①指導する上での問題点

初年度はレイアウトする上での構成の大事さや、フォントの説明などに重点を置いていたが、自分の作品との関連を持たせることができなかった。レイアウトを学んでいない学生に、聞きなれない紙面構成の用語や、なぜフォント選びや余白が大事なのかを本当に理解してもらうことができなかったと思う。現在、1 年生対象の授業として「コンピュータ基礎実習」があり、Adobe Illustrator と Photoshop の使い方を指導しているが、課題の指示通りに作る、といった内容である事、また、1 年生での開講のため、高学年になるとソフトの使い方自体を忘れてしまう学生が多い。授業内でレイアウトの説明もしているが、指示通りに作成するのに手一杯で、なかなか自分の作品に応用する、というところまで到達できていない。レイアウト作業が専門の学科だけでなく、全学科でもっと身近になればと考える。

②作品とレアイウトの関連性

ポートフォリオ作成講座は全学科の学生が受講しているため、開講当初は筆者とジャンルの違う学科の学生の作品を細かく見ることができていなかった。建築やプロダクトなど、学科の課題内容には触れず、ただ作品を配置し、文字をそこに構成することを考えていた。しかし、各学科の課題をよく観察すると、コンセプトが「女性のための」であるのに、太く強いフォントを使用していたり、「自然を強調している」というコンセプトに黒や赤といったビビットなカラーを使用していたりと効果的ではない組み合わせをしている作品が多々あった。ポートフォリオを見る企業の人は、必ずしも専門職だけではないという事も考え、第三者の意見として筆者自身でも各学科の学生に質問し、課題や作品のコンセプトを聞き出すようにした。そこで、今回のようにこちらでレイアウトのテンプレートを用意し、イメージに合ったフォントを選ぶ必要がある事、普段の課題からフォントやカラーを意識する事を解説した。学科での課題のプレゼンやパネル作りに応用し、後にポートフォリオを作る際に応用できるようになれば良いと思う。

③完成形まで至らない

2 回目以降、レイアウトできたものに対してプリントアウトして校正や修正を説明し、検討して再構成する、という事を繰り返すが、1 冊最低でも 24 ページは必要であろうと思われるポートフォリオは完成には至らない。さらに、課題や自主制作をブラッシュアップ、追加していると、制作の時間も必要となってくる。講座が終わっても、引き続き制作を続けて欲しい。

④企業研究ありき

とりあえずレイアウトを、という目的でスタートした「ポートフォリオ作成講座」であったが、やはり企業研究ができていない、何をやりたいかまだ決めていない、という学生が大半である。しかし、講座に参加している、というだけでも、就職に対し前向きな意識を持っていると考えることができる。多くの学生は「ここなら行けそう」といった考えで企業説明会や採用選考に登録してしまい、実際にポートフォリオを作る時になってクリアファイルに「適当に作品を入れただけ」という学生が多いのもまた現実である。

＜終章＞

（第１節）改善策として

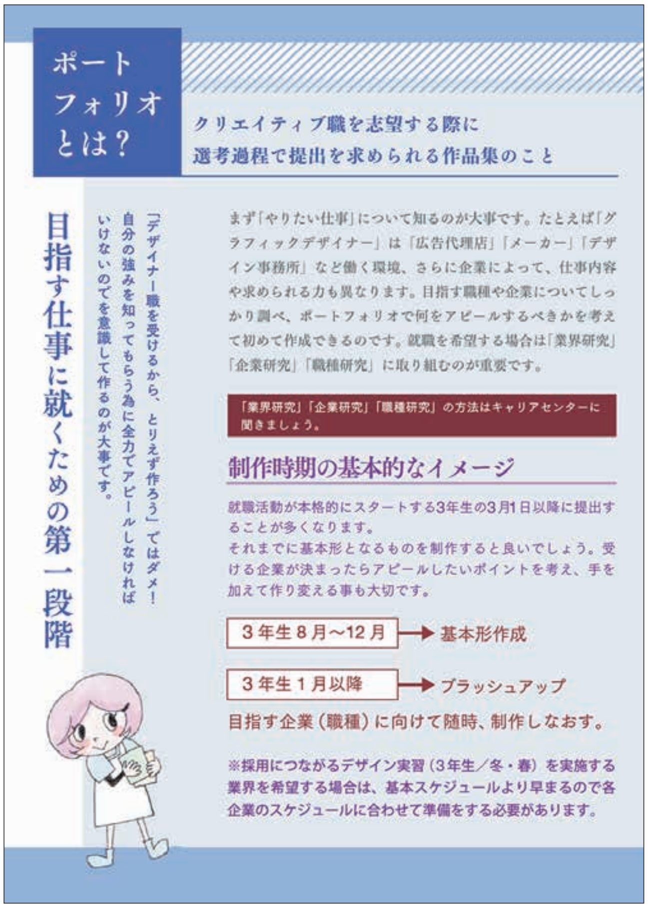
レイアウトは大事である。が､それよりも｢見る人(企業)に自分を知ってもらう」「見やすく丁寧に作る」「この会社に入りたいという熱意を伝える」ということはもっと重要で、「熱意を伝えるツール」としてポートフォリオが存在する事を忘れてはならない。ただ綺麗にレイアウトする、という考えからシフトチェンジし、今回の『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』にはまず巻頭に「企業研究」の大切さを明記している（図 8）。

さらに、企業のデザイン実習に行くのであれば一般的な就職活動時期より早い段階からポートフォリオが必要になることから、活動・準備スケジュールの管理等、講義ではフォローできない事も当冊子に明記している。

全 6 回の講座では、ポートフォリオ 1 冊を完成させるのも困難であるが、近年、企業によっては「データで提出」や「3 分程度のプレゼンテーション」などで選考する場合もある。そういった場合の作品のまとめ方などまでは、「ポートフォリオ作成講座」ではフォローする事が困難である。

今回の冊子では、データを送る場合の注意点や、プレゼンする場合の作品の扱いなどにも言及している。

設備の問題もあり、全学科にポートフォリオ作成講座を開講するのは現状では困難であるが、ポートフォリオの批評・講評を行う窓口を、専門的な領域（建築専門、ファッション専門、アニメ映像専門など）ごとに設けることができれば、比較的理想に適うとも考える。



（図 8）『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』／企業研究のページ

（第２節）冊子『ポートフォリオ制作 BOOK・入門編』の作成について

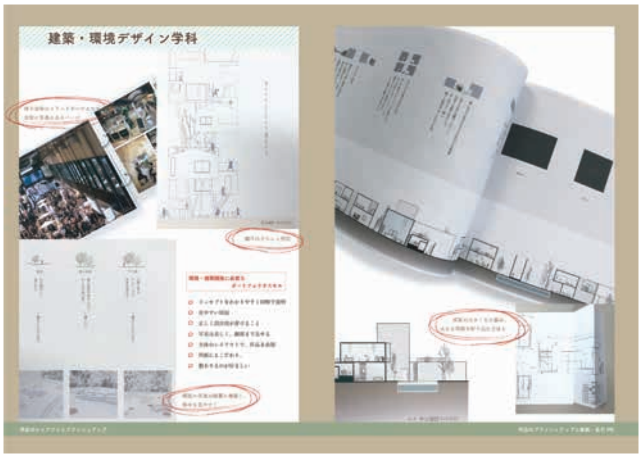
前段でも触れているとおり、2015 年から現在に至る講座での指導の体験・反省が当冊子の制作企画の元となっている。

「ポートフォリオ作成講座」を受けることができなかった学生や、受講の前段階として学生に読んでおいて欲しいという思いでこの冊子を作成した。ポートフォリオに付随する問題でキャリアセンターに相談に来る内容が多い「送付の仕方」や「メールの書き方」なども追記している。

当初は「学科別」として、卒業生のポートフォリオの例を画像をメインに配置するページを作るようにした（図 9）。文字を読むより、実際に先輩の例を見る方が実感できると思ったからである。学科別のページは、各学科の教員に確認を取っていただき、ポイントとして簡潔に重要な点のみ

チェックしてもらうようにした。しかしながら、ポートフォリオの相談に来る学生のなかには専攻学科ではない職種を希望する者もいる。「環境デザイン学科だがゲーム業界に行きたい」、「まんが表現学科だがグラフィックデザインをしたい」といった相談が実際にあった。そこで、「学科」という枠組みを外し、「希望する業種別」という編成に変更した。「希望の職種につくためにどういった内容を掲載すれば良いか」「この職種につくにはこれだけのスキルが必要なんだ」といったイメージを掴んで欲しいという意図からの変更である（図10）。

既存するポートフォリオの参考書は、作例を見開きで見



（図9）『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
改定前・各学科ページ

（図10）『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
改定後・希望業種別

せている場合が多く、どういった作品が載っているのか、何を載せるか１つ１つの作品のポイントが見えにくいものが多い。

そこで、今回は「見開きでデザインする」ということは前ページの「レイアウトの項目」で説明し、実際のポートフォリオの例では、載せるべき作品やポイントを大きく画像で見せる事にした。本学の卒業生の作品なので、より身近に感じられると考える。以下は刊行の概要である。

・冊子形態／B6サイズ／初版・1,500部印刷
・内容／28ページ（予定）
・2019年9月完成予定
・2年生・3年生の後期のオリエンテーションで告知
・キャリアセンターにて配布
・11月14日開始の「ポートフォリオ作成講座」受講生に配布。

形態等については、持ち運びが簡単であるように、小さめのB6サイズとしている。小型のタブレット画面程度のサイズだが、見開きを考慮したレイアウトにより、実質B5サイズ並の情報量を一覧することができる。

今回、「入門編」として冊子を作成したが、時代の変化に応じた改訂と、より高度な自己PRツールを制作するためのテキストの企画・制作へと発展させていくことを想定している。今はまだ学生各自が、自身の作成してきた課題や作品を掲載し、コンセプトや制作工程を説明するといった内容を目指しているが、作品が無くてもその企業に入りたい、といった熱意を感じるポートフォリオ、またはポートフォリオに変わる「何か」が審査基準になるかもしれない。作品を並べるのもなかなか困難であり、時間がかかる作業であるが「フリーに何でも」という出題のされ方が出てきた時、どのような指導をするのかが今後の課題であると同時に、学科や専攻の枠を超えて職種の幅が広がる可能性も期待できる。そうなると、さらに深く自分の強みやアピールの仕方をさらに研究する必要がある。このほか、企業・事業所側の採用選考の形式、指定書類・課題の提出方法の変化にも注視しなければならない。新卒採用において「就活サイト」の活用が完全に一般化した現在、ポートフォリオ提出においても今後IoT活用が推進されることは想像に難くないからである。学生達には、状況に応じて自らが適切な準備を行うことで対応できることを、冊子を援用して伝えていきたい。

（第３節）一連の取り組みを行なった感想

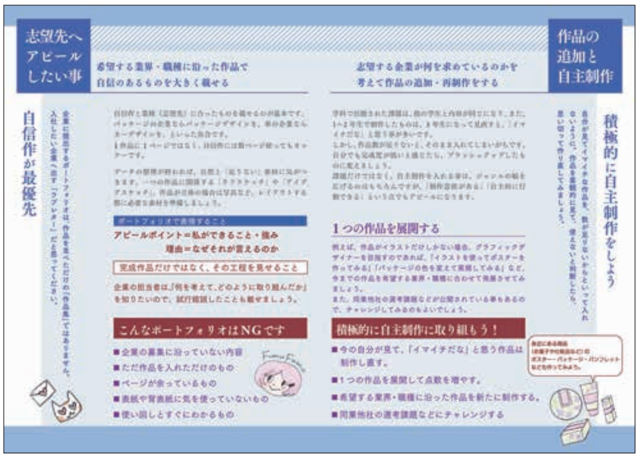
今回の冊子は、「ポートフォリオ作成講座」の実施中に気になった事、ポートフォリオ相談を受けて気になった事、キャリアセンターの窓口に来る学生の相談にどういう内容が多いかなどをまとめたものだが、まだまだフォローできていない部分は多いと感じている。各分野の専門的な事柄や、レイアウトの本質には今回は触れておらず、「とりあえず１冊作ろう」というのが目的である。その後は、希望の企業に合わせて何度も作り直して欲しいのだが、3〜4年生は課題や卒業研究などでなかなか制作時間とれないと思われる。

ただ、ポートフォリオは就活のためだけではなく、普段から作って持ち歩くものである。筆者が学生の頃、ポートフォリオは「遊びに行く時こそ持って行くものだ」と教わったことがある。どこで誰と出会うかわからないし、仕事のチャンスはどこにでもある。その時に、パッと作品を見せる事ができたら、就職志望ではなくアーティスト志望であっても直接的に仕事に結びつく事がある。常に自己PRができる準備ができていることが望ましいが、そこまでの指導はまだできていない。

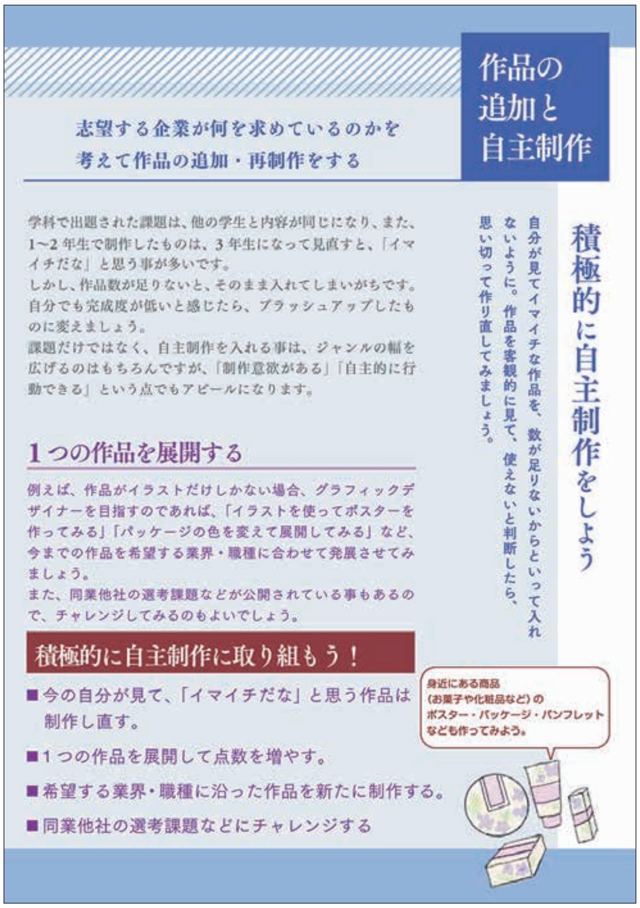
現実的に必要となるまで、作成するのが億劫な「ポートフォリオ」であるが、本来は「自主的に作成する」のが好ましいものである。今回は「レイアウト」をテンプレートにしたため、そこに悩まされる時間は少なくなるかもしれないが、形態にとらわれて自由な発想ができなくなってしまうかもしれないという危惧もある。日頃からアイデアやスケッチを残しておくことや、早い段階で希望職種を見つけ、「自主制作」に積極的に取り組むこと、自分でいまひとつだと思う課題や作品は、その都度ブラッシュアップすること、さらに「課題から先の展開を増やす」といった事を心がけて、作品に対する意識を変えてもらえればと思う（図11）（図12）。

そうして「自分で課題を考えて作れるようになる」「他の同じ業種の企業の課題に取り組んでみる」といった自主性を持ち、「ただ作品を入れただけのポートフォリオ」から卒業できる事を望む。

そうすれば、クリアファイルに入れるのか、製本するのか、といった形式上の迷いや疑問は、自ずと「こういった装丁の本に仕上げたい」というこだわりに変わるであろう。



（図11）『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
載せるべき作品とは



（図12）『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』／
作品の自主制作を促す

採用選考応募者からたくさんのポートフォリオが送られてくるような企業では、じっくり一人一人のポートフォリオを見てもらえる機会は少ない。受け手側の状況、企業の

事業やサービス、将来ビジョンなどから、どのようなスキルやセンス、経験値を求めているのかを、情報収集によって十分に見定め、採用側にとってインパクト・説得力のある構成を考える必要はある。だが本学生は、「やりたい事」「できる事」をビジュアルで説明できるスキルを充分に持っていると思う。文章や口頭で長々と説明するよりも、一目で伝えたい事がわかるように、視点を変えて欲しい。

まずは「伝えたいことが誌面から伝わる」という事を心がけ、最終的には「一目、見ただけでも心に残る」ポートフォリオを作成できるようになれることを期待する。

〈参考文献〉

中路 真紀、尾形 美幸著『採用担当者の心に響くポートフォリオアイデア帳:クリエイティブ業界への就職と、入社後のキャリアデザイン』ボーンデジタル、2016

佐藤 良仁ほか編著『クリエイターをめざす人のための、人の心を動かす三ツ星ポートフォリオの企画「虎の巻」:グラフィック・広告・WEB・空間・プロダクトデザイン、アニメ、ゲーム、CG』六耀社、2011

MdN 編集部編『デザイン・クリエイティブ業界を目指す人のためのポートフォリオ見本帳』エムディエヌコーポレーション、2019

ワークスコーポレーション別冊・書籍編集部編『クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの教科書』ワークスコーポレーション、2009

4D2A、ワークスコーポレーション書籍編集部編『クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの実例集』ワークスコーポレーション、2011

〈作品協力〉

※本稿掲載の画像の作品

黒田 栞祐

西岡 大周

足立 明日香

〈制作協力〉

※本稿並びに『ポートフォリオ制作BOOK・入門編』

キャリアセンター室　藤田 玲子